

赤十字奉仕団だより

赤十字の基本原則

人道、公平、中立、独立、奉仕、单一、世界性

第42号



写真 (左上) 東長江町土砂災害避難所（夕日寺校下赤十字奉仕団） (右上) 金沢マラソン AED 隊事前研修

(中央) 北国銀行ハニービー金沢赤十字応援試合 手洗いチェック（赤十字安全法奉仕団）

(左下) 赤十字ボランティア基礎研修 (右下) タオルの寄贈（西地区赤十字奉仕団）

金沢市東長江町土砂災害への対応

夕日寺校下赤十字奉仕団 中川 一成

2月1日未明、当地区内で法面が崩落し、20世帯に避難指示が出され、16世帯36人が公民館、他世帯は知人宅等へ避難しました。

避難所は自主防災会が運営し、公民館、防災士、赤十字奉仕団、市職員がサポートしました。

避難された方々は近隣住民同士で、日頃から顔を合わせる間柄であったため、避難所には協力し合う連帯感がありました。また、当地区は各町会に防災士がおり、今回の避難者となった中にも防災士がいたことから、積極的に避難所運営に加わりスムーズ進めることができました。奉仕団としても、県支部と連携することで必要な救援物資や感染対策物資を速やかに届けていただきました。

一方で、今回は一部地区の被災であったため、コロナ対応や必要物資を充分に揃えることができましたが、大規模災害時や、避難所自体が停電や断水するケースなどでは復旧するまでの物資や資機材が必要となり、今後の資機材備蓄の課題と思われます。

今回の経験から、やはり日頃から家族や地域住民同士で起こりうる災害を想定し話し合うことが重要だと再認識しました。



『赤十字防災セミナー』を実施して

赤十字安全法奉仕団 福井 有澄

昨年の11月27日に安全法奉仕団の研修会で赤十字防災セミナーをオンラインで行いました。このセミナーの内容は①災害への備え②災害エスノグラフィー③DIG（災害図上訓練）④その他 からなり、必要なものを選択、組み合わせが可能になっています。今回は『災害への備え』を選択し、災害発生時に「いのちを守る」備えと災害発生後の「暮らしをつなぐ」備えを受講者に考えてもらいました。

赤十字防災セミナーは2017年から行われていますが、充分に周知されているといえません。そこで、多くの皆さんに赤十字防災セミナーのことを知ってもらい、このセミナーを通して各地域の防災教育に役立ててほしいと思います。

金沢マラソンAED隊に参加して

石川県青年赤十字奉仕団 中村 知貴

2015年の第1回大会、2016年の第2回大会に続き、AED隊として今回3回目の参加をさせていただきました。事前に救護ボランティア研修に参加したのですが、前回参加させていただいてから少し時間が経っていたため、AEDの使い方並びに緊急時の救護対応に関して改めて学ぶことができ良かったです。今回は男子更衣室での救護活動であったため、前回担当したコース上でのランナーへの接し方とは勝手が違いましたが、何事もなく救護活動を終えることができ安堵しました。コロナ禍でイベントが自粛される中、ボランティアを行える場も限られていますが、これからも積極的にボランティア活動に参加したいです。



これからも積極的にボランティア活動に参加したいです。

金沢マラソンで一次救命処置を行って

北陸大学学生赤十字奉仕団 川崎 茉由

金沢マラソンにAED隊として参加しました。私は40km付近のエリアに配置され、AEDを持ってコース沿道で待機していました。私の近くでランナーの1人が意識を失って倒れたため、AEDを持って駆け付けると、近くを走っていた医師資格をもつ一般ランナーも駆け付け、体位変換と心肺蘇生、AEDを用いた除細動を行いました。倒れたランナーは救急車で医療機関に運ばれました。後日、無事に退院したと聞きとても嬉しかったです。

急な出来事でとても動搖したけれども、事前研修で一次救命処置を学んでいたことが役に立ちました。日頃からAEDの場所を確認することや、AEDの操作方法を学んでおくことが大切だと感じました。



ボランティア基礎研修を受講して

かほく市赤十字奉仕団 村本 照美

赤十字の父アンリーデュナンは「戦争で傷ついた者には敵も味方もありません 人間はみな兄弟です」と周りに呼びかけ救護隊を結成しました。彼の生き方を通して赤十字について学び、震災や豪雨災害での奉仕団活動の体験談から現場の状況や活動の大変さを知り、グループ討議では災害を想定した話し合いの中から「自助」「共助」「公助」とは何かについて考えました。仲間と相談し、共に考えて実行する事の積み重ねが人を救う結果につながるので、基礎研修で学んだことを今後の活動に生かしたいです。



● 海外たすけあい募金を行って

津幡町赤十字奉仕団 筑波 恵美子

津幡中学校 JRC の生徒6名と海外たすけあい街頭募金を行いました。生徒達は勉強、部活動の忙しい中を1時間、店頭に立って来店する方たちに大きな声で呼びかけました。若い人がそばにいるだけで明るくなり、頼もしく感じました。

短い時間でしたが、生徒さんたちと赤十字の意義や役割を話し合いながら活動できたのはとても有意義な時間でした。



● 愛と平和のワンコイン募金を行って

北陸大学学生赤十字奉仕団 粟野 月南子

街頭募金の呼びかけは2度目でしたが、やはり慣れるまでは恥ずかしい気持ちもあり募金活動の難しさを感じました。しかし、国際活動支援のために募金をしてくれる方がたくさんいて、活動に参加してよかったですなあと思いました。また印象的だったのは、私たちに向けて「おつかれさま」「頑張ってね」と一言声をかけてくれた方もいたことです。心がとても温かくなりました。今度は自分が募金や支援活動を通して、おなじ温かい気持ちを誰かに伝えたいです。

北陸大学学生赤十字奉仕団 長浦 成美

愛と平和のワンコイン募金に参加して、通りかかったたくさんの方が募金に協力していただきとても温かい気持ちになりました。

この活動を通して、国外の方への力に少しでもなれたなら嬉しいです。また、参加できてとても良かったと思います。これからも、国外の方への支援にどんな形でも参加できたらいいなと思いました。また、募金活動を街で見かけたら自分も募金しようと思いました。



あとがき

新型コロナウイルス感染症が世界的に流行して早3年目、赤十字奉仕団の活動も感染対策を徹底し可能な範囲で行ってきました。この状況はしばらく続きそうですが、支部委員会も各種研修等のさらなる充実に努めてまいりますので、引き続きご理解とご協力のほどよろしくお願いいたします。

編集委員 寺本、北村、田中、村中、吉本

※日赤石川県支部のホームページからも奉仕団だよりを閲覧することができます。

